

Campus Today



第41回 全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会を開催

全国29歯科大学・歯学部学術担当者が情報交換 — 学術研修のさらなる充実をめざして —

残暑激しい中、8月23日（土）、松本歯科大学図書館学生ホールを会場として、第41回全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会が開催された。本連絡会は、全国29歯科大学・歯学部の同窓会・校友会の学術担当者が一堂に集まり、各大学で開催している学術研修会の開催テーマや方式などについての情報交換を行い、今後の活動に役立てていくことを目的として開催されているものである。

全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会は、1997年から開催され今回41回を迎えるが、2008年に本学が主管してから17年経過した状況での2度目の主管となった。

来学した先生方の中には、前回の穂高ビューホテルでの思い出などを語る方もいらした。

総会では、研修会報告書や連絡網の確認などが行われ、今後5年先までの主管校の進捗状況を討議した。

総会の後、基調講演として WHITE CROSS 株式会社代表取締役であり、本学の非常勤講師でもある赤司征夫先生より『歯科医療の近未来はどうなるのか?』というタイトルでご講演をいただいた。



主管校代表として総会の議事進行をする宇田川信之常務理事（右から二人目）と川原一郎常務理事（右端）

に着席し、フレンチレストラン「雷鳥」および中国料理レストラン「スターダスト」特製の料理を楽しむことができた。参加者からは、本学の中国料理が本場横浜を凌ぐとの絶賛をいただいた。アトラクションとして朱紫令真さん（元宝塚歌劇団星組）による歌謡ショーが行われた。



全国から学術担当者が集い満席となった学生ホール

第57回歯学体結果報告

水泳部・弓道部が個人戦で大活躍

— 水泳部・古俣海翔君が男子200m個人メドレー2年連続優勝 —

第57回全日本歯科学生総合体育大会（全日本歯科学生体育連盟主催、スポーツ庁後援、鶴見大学歯学部事務主管）の夏期部門が7月31日（木）から8月11日（月・祝）まで、競技部門ごと各地で開催された。

水泳部は第2学年の古俣海翔君が男子200m個人メドレーで2連覇を果たし、弓道部は第1学年の平田聡真君が優勝、同じく第1学年の今井遥君が2位となるなど、本学学生も大健闘した。



優勝した古俣君（中列左から3人目）と3位入賞の綾坂さん（前列右から3人目）ほか水泳部員



弓道部門で優勝した平田君（右）と準優勝の今井君

弓道部門男子個人

優勝・平田聡真君

準優勝・今井遥君

弓道部門は8月5日（火）から8日（金）まで、神奈川県立武道館にて開催されました。本学弓道部からは男女各5人が出場し、男子個人で平田聡真（第1学年）が優勝、今井遥（第1学年）が準優勝を果たしました。

ライ、自由形ともに3位になったほか、第3学年の佐藤実夢さんが得意のバタフライ種目の女子100mで4位、女子50mで7位となるなど健闘が際立った。このほか、バレーボールは名古屋市の愛知県体育館で行われた。

「日本に明るい未来をもたらそう」などと、株式会社アルムノートが運営し、参加する。



専用サイトQRコード

本学は10月10日（金）から19日（日）まで開催される全国的な、学生による資金調達イベント「ギビング キャンペーン2025」に参加する。専用サイトを閲覧者が、参加大学の中から応援したい大学の支援者となって、気持ちを表す。または寄付をすると、配分される仕組みのイベントで、本学も多くの人の応援、寄付を呼び掛けている。

ギビング・キャンペーン 10/10（金）～19（日）

本学は10月10日（金）から19日（日）まで開催される全国的な、学生による資金調達イベント「ギビング キャンペーン2025」に参加する。専用サイトを閲覧者が、参加大学の中から応援したい大学の支援者となって、気持ちを表す。または寄付をすると、配分される仕組みのイベントで、本学も多くの人の応援、寄付を呼び掛けている。

議席は変わっても 政治は変わらなかった

内閣官房参事
松本歯科大学常務理事
飯島 勲

今月号では『プレジデント』8月29日号「リーダーの掟 飯島 勲」より、「参院選に思う。議席が変わっても政治は変わらなかった」の記事を要約して紹介します。

7月20日に投開票が行われた参議院議員選挙で、自民党・公明党の連立与党は大幅に議席を減らし、昨年の衆院選に続いて過半数割れとなった。

また、過去に自民党が大敗した選挙では自民党への批判票は革新系の野党に入ったものだが、今回、立憲民主党は議席数を伸ばすことができず、共産党は議席を減らした。与党だけでは減少する一方で、国政ではほとんど実績のなかった参政党が、1議席から14議席へと勢力を拡大させた。数字上では、自民党が減らした13議席が参政党に移

取りを増やす」も参政党の「日本人ファースト」も、有権者が現在進行形で抱える不満を意識したもので、この国の将来像を示すところには至っていない。



参院選の結果を受けて会見する石破首相

一方、有権者の側も与党の政治を批判するだけでなく、自分自身が政治活動に参加しようという動きは見えず、このまま日本の政治を変えるための大きなうねりが起きると思えない。

野党各党も与党の過半数割れで満足したのか、各党が連立して政権を取ろうという動きが全く見えないのも情けない。自民党は比較第一党ではあるものの、この選挙結果であれば下野せざるをえないはずが、野党のふがいなさからか、連立の枠組みばかりが話題になる。そして今回の選挙によって、単独で法案提出できる議席数を得た参政党は国政にどんな関わり方をするのか。投票した有権者は責任を持つて見守る義務がある。

自民党は選挙結果について総括する方針を明らかにしている。石破 茂首相は統投の意欲を見せているが、党内では退陣という見方が大勢を占めており、先行きは不透明だ。しかし、選挙の顔として期待されて首相に就任しながら、昨年の衆院選、今年6月の都議選、そして今回と、大きな選挙で3連敗と結果を出すことができなかったのは事実だ。石破内閣の参与という立場では書きづらいのだが、責任論が出るのも理解はできる。石破首相は就任1年足らず。だからこそ、負けたら下野する覚悟で

衆議院を解散し、石破首相が目指す日本の将来像を明確に示して、国民に信を問うという選択を見せてもらいたかった。

私も政治の世界に入って53年になる。拉致問題の解決に貢献するのが最後のつとめと働いてきたが、首相官邸の主が変われば今度こそ参与の職から離れることになるだろう。2012年、第2次安倍内閣で参与となったから、首相が交代するたびに、今度こそお役御免と思いついて働いてきた。正直なところ、石破首相のためにもう少し働きたかったが、いつでも部屋を引き払えるように準備しておく必要がありそうだ。

この数十年、首相の海外訪問に同行して、さまざまな国に行くことができた。どこに行っても、空港と会議場とホテルを往復しているだけで、有名な観光地はほとんど見ていない。往復機中泊は当たり前。帰国後は羽田空港から官邸に直行してすぐ

に仕事というの慣れたものだ。個人的にはつらいと感じていない。小泉内閣の秘書官時代には毎日2時間の睡眠で働いていたから、常にフル稼働する生活に慣れたのかもしれない。

私はプライベートで使う個人のパスポートのほかに、公用パスポートを持っているのだが、公用パスポートは更新前にもかかわらず2冊目に入った。各国のスタンプでいっぱいになっている。一方、プライベートではどこにも行っていないので真っ白なままだ。少し寂しい気もするが、それだけ国のために働いてこられたということは素直に誇りに思う。

また、過去に自民党が大敗した選挙では自民党への批判票は革新系の野党に入ったものだが、今回、立憲民主党は議席数を伸ばすことができず、共産党は議席を減らした。与党だけでは減少する一方で、国政ではほとんど実績のなかった参政党が、1議席から14議席へと勢力を拡大させた。数字上では、自民党が減らした13議席が参政党に移

残念なのは、選挙の勝敗にかかわらず日本の未来を見据えた政策を訴えた政党が見当たらなかったことだ。国民民主党の「手

この数十年、首相の海外訪問に同行して、さまざまな国に行くことができた。どこに行っても、空港と会議場とホテルを往復しているだけで、有名な観光地はほとんど見ていない。往復機中泊は当たり前。帰国後は羽田空港から官邸に直行してすぐ

に仕事というの慣れたものだ。個人的にはつらいと感じていない。小泉内閣の秘書官時代には毎日2時間の睡眠で働いていたから、常にフル稼働する生活に慣れたのかもしれない。

私はプライベートで使う個人のパスポートのほかに、公用パスポートを持っているのだが、公用パスポートは更新前にもかかわらず2冊目に入った。各国のスタンプでいっぱいになっている。一方、プライベートではどこにも行っていないので真っ白なままだ。少し寂しい気もするが、それだけ国のために働いてこられたということは素直に誇りに思う。

特別な血液疾患が存在していない患者でも、抜歯後の出血がトラブルとなることがあります。筆者が東京の病院で働いていたときに、知り合いの弁護士さんからこんな相談をされました。「ひとり暮らしの女性がビル開業の歯科医に奥歯を抜いてもらったところ、帰宅後も出血が止まらない。担当のクリニックに電話したが、終業後は無人となっていてはしく、全く連絡が取れない。食事もとれないまま、血の混じった唾液を吐きだしていたら、洗面器一杯になり、気分もひどく悪くなったので、119番に電話して救急搬送してもらって、なんとか助けられた。

恐ろしい目にあわされたので、その歯科医を訴えたい」と、事務所を訪ねて来られたのだそうです。筆者が「専門家の立場から、どのように考えます」と意見を求められたわけですね。

前回お話ししたように、抜歯創は血餅の凝固による二次的治癒を待たねばならない創傷ですから、それを気にして含嗽などをすれば、唾液に血が混じること

歯科補綴学講座・笠原隼男准教授がシンポジストに 日本口腔インプラント学会関東・甲信越支部学術集会



シンポジストを務める笠原隼男准教授（右から2人目）

り、旬な学術情報や学術大会では取り上げづらい内容をテーマに毎年開催されている。近年は全国的にも認知度が高まり、今回の参加者は300人を超えた。

今回のシンポジウムは「ゼロボーンロスを達成するためのストラテジー」をテーマとして、選ばれたシンポジスト12人より、全セッションを通じて「インプラント周囲骨を吸収させない」ための試みが外科・補綴・歯周病および材料学的観点から語られた。筆者はシンポジストとして登壇する機会を頂戴したため、「シミュレーション」とおりの埋入のために「動的ナビゲーション」という選択肢」を演題とし、ナビ

ゲーションシステムを愛用する立場からその利便性や注意点について発表を行った。

そのほか各シンポジストからはそれぞれの専門分野から、インプラント治療の立案時点からの歯科技工士との連携や、上部構造のエマージェンस्पロファイル・歯肉貫通部にかけての形態、広範囲顎骨支持型装置の適応や、粘膜の厚みによるボーン

ロスのリスクや推奨されるインプラント埋入深度など、多岐にわたる発表がなされた。各セッション後には質疑応答の時間が設けられ、会場から質問が相次ぎ活発な議論が展開された。最新の知見を得ることができたと同時に、各シンポジストから熱い刺激を得ることができた貴重な機会となった。

（歯科補綴学講座 准教授 笠原隼男）

岡藤教授と24期生 薄井先生、28期生 荒井先生、31期生 三原先生 『デジタル矯正歯科フロンティア』で共著発表

歯科業界大手のクインテッセンス出版の『別冊DIGITAL×ORTHO デジタル矯正歯科フロンティア2025』2026（2025年1月刊行）に、本学の岡藤範正教授（大学院硬組織疾患制御再建学講座）と山梨県甲府市の「歯科・矯正

歯科業界大手のクインテッセンス出版の『別冊DIGITAL×ORTHO デジタル矯正歯科フロンティア2025』2026（2025年1月刊行）に、本学の岡藤範正教授（大学院硬組織疾患制御再建学講座）と山梨県甲府市の「歯科・矯正

この本は現在矯正歯科業界で最新技術となる「アライナー矯

「小児期のアライナー矯正治療」は従来の小児期の矯正治療とはコンセプトが異なり、歯列

「小児期のアライナー矯正治療」は従来の小児期の矯正治療とはコンセプトが異なり、歯列

（31期生 三原 正志）

創立者の「視点」



大学誌編集主幹
特任教授
笠原 浩

なからず耳にします。近年の筆者は「歯を抜かない歯医者をめざしてはいますが、どうしても抜歯せざるを得ない場合には、ガーゼを噛ませて圧迫止血をしながらくどいほど説明します。

抜歯した歯を示して「この歯の根が入っていた大きな穴が、周りからでた血で一杯になり、それが固まって傷を塞いでいきます。つまり、この歯の根と同じ大きさの血の塊があるわけですね。今晚一杯はそこからじくじくと血がにじみ出しています。一種のカサブタです。強いうがいや指で触れるなどでカサブタをめくってしまうと余計に出血しますから、なるべくソックスとしておいてください。麻酔のしびれが取れたら、ふつうに食事をしてください。少しは出血していても自分の血ですから一緒に吞み込んで大丈夫です」「上手に抜きましたから、それほど傷や痛みはしないはずですが、全く痛みないとは言えませんが、麻酔のしびれが取れてきたら、痛み止めを一粒飲んでください。もう一粒は予備です。今晩はお酒とお風呂、激しい運動はお避け下さい」「万一、出血が止まらない、強い痛みが治まらない、ひどく腫れて熱がある…などの異常がありましたら、電話で連絡してください（緊急連絡先〇〇〇〇〇〇）。

これだけの話をしていると、3〜4分は経過するので、噛ませておいたガーゼを取り除き止血状態を確認します。念のため「また血が出るようでしたらこれを5分間しっかりと噛みください」と包装した滅菌ガーゼを手渡ししておきますが、実際に用いられることはほとんどないようです。

全身疾患と口腔 白血病③

白血病患者は「歯を抜かない歯医者をめざしてはいますが、どうしても抜歯せざるを得ない場合には、ガーゼを噛ませて圧迫止血をしながらくどいほど説明します。

抜歯した歯を示して「この歯の根が入っていた大きな穴が、周りからでた血で一杯になり、それが固まって傷を塞いでいきます。つまり、この歯の根と同じ大きさの血の塊があるわけですね。今晚一杯はそこからじくじくと血がにじみ出しています。一種のカサブタです。強いうがいや指で触れるなどでカサブタをめくってしまうと余計に出血しますから、なるべくソックスとしておいてください。麻酔のしびれが取れたら、ふつうに食事をしてください。少しは出血していても自分の血ですから一緒に吞み込んで大丈夫です」「上手に抜きましたから、それほど傷や痛みはしないはずですが、全く痛みないとは言えませんが、麻酔のしびれが取れてきたら、痛み止めを一粒飲んでください。もう一粒は予備です。今晩はお酒とお風呂、激しい運動はお避け下さい」「万一、出血が止まらない、強い痛みが治まらない、ひどく腫れて熱がある…などの異常がありましたら、電話で連絡してください（緊急連絡先〇〇〇〇〇〇）。

これだけの話をしていると、3〜4分は経過するので、噛ませておいたガーゼを取り除き止血状態を確認します。念のため「また血が出るようでしたらこれを5分間しっかりと噛みください」と包装した滅菌ガーゼを手渡ししておきますが、実際に用いられることはほとんどないようです。

（31期生 三原 正志）

歯科保存学講座（歯周）・大谷有希大学院生
日本顎咬合学会で国際学会誌で優秀論文賞を受賞

歯科保存学講座（歯周）の大谷有希大学院生（第4学年・健康増進口腔科学講座・口腔健康分析学専攻）が、日本顎咬合学会の国際学会誌である『Journal of Interdisciplinary Clinical Dentistry』に投稿した長期症例報告論文「A case report of interdisciplinary treatment for broad type periodontitis patient.」が、2024年度の優秀論文賞に選ばれ、6月7日（土）、8日（日）、東京国際フォーラム（東京都）で開催された第43回日本顎咬合学会学術大会・総会の中で授賞式が行われた。



スポンサーのモリタ様より贈呈されたゴールドの咬合器を持つ大谷大学院生（右）と吉成伸夫教授

本論文は、咬合崩壊直前の広汎型慢性歯周炎患者に対して、炎症と咬合の安定化を治療のゴールに設定し、歯周病、矯正、補綴治療を各診療科のチームアプローチにより包括的治療を施行することにより良好な結果を得ることでき、長期にわたって安定している症例を発表したものである。

初診から18年、歯周病安定期治療に移行してからも10年以上経過している症例のデータを初

診時から、歯周病治療、矯正治療、補綴治療の経過を整理し、口腔内写真、歯周組織検査所見、X線写真を経時的に比較しながら報告したもので、本学の包括的治療のレベルの高さが評価された。

大谷大学院生は「何も分からないところから指導してくださった本学保存科（歯周）吉成伸夫教授、本論文を推薦してくだ

歯科学生になった気持ちで模擬実習を体験
——毎回参加者から感動の声多数——

歯学部 一日体験入学

歯学部の一日体験入学は本年度も、7、8月を中心に多くの高校生が保護者と一緒に参加し、模擬実習や学生たちによるキャンパスツアーなどを通して

度も、7、8月を中心に多くの高校生が保護者と一緒に参加し、模擬実習や学生たちによるキャンパスツアーなどを通して

肢となります。しかし適切でない方法を選んでしまうと、かえって恐怖や不信感を強めてしまうリスクもあります。

歯科医師は患者さんを深く理解し、よく観察し、個々に最適な方法を見極めなければなりません。

当科には県内のみならず隣県

からも多くの患者さんが来院されます。これはこうした行動調整法が「治療を受けられなかった人にも、歯科治療を届ける手段」としてこれまで地域連携歯科が長年積み重ねたことが評価されているからだと思っています。

「歯医者さんが怖い」という思いは同じであっても、感じ方、できること、怖いことは一人ひとり違います。私たちがすべきことは「その違いを知り、寄り添うこと」、それが、行動調整法の根幹にある考え方だと思っています。

すべての人に、やさしい歯科医療を届けるために、私たちは日々、学び続けたいと思います。

（地域連携歯科 助手 岸 英之）



全身麻酔下集中歯科治療の様子

病院だより vol.68

地域連携歯科 (2)

「歯医者さんが怖い」その先にある、やさしい歯科医療のかたち

な患者さんに「普通の治療をしましょう」と言っても、うまくいくことはほとんどありません。では、どうすれば安心して治療が受けられるのでしょうか。このような状況に対応するために、地域連携歯科では「行動調整法」と呼ばれる方法を用います。

これは、患者さん一人ひとりの状態や発達段階に応じて、無理なく治療が進められるようサポートする方法です。行動調整法には、「薬を使わない方法」と「薬を使う方法」があります。まず、薬を使わない方法としては、トレーニングによって治療に慣れもらう「行動療法」、そして安全を確保するために身体の動きを制限する「身体抑制法」などがあります。

また、リラクゼーション作用のある笑気ガス（吸入鎮静法）も軽度の恐怖感を持つ患者さんには効果的です。一方、薬を使う方法としては、「静脈内鎮静法」や「全身麻酔法」があります。

さった日本顎咬合学会前理事長で本学歯科理工講座の黒岩明弘教授をはじめ、本症例に携わり最善の治療を下された専門の先生方に、この場をお借りして関係者各位に厚くお礼を申し上げるとともに、自身もこのような症例が出来るように日々精進していきたいと思っています」と語っていた。

（学長・顎顔面外科・顎関節症・顎関節症 吉川 寛之）



学生（中）のサポートで模擬実習を行う参加者

第3学年・田中麗華さん
学業の傍らタイ舞踊ダンサーとしても活動

第3学年の田中麗華さんは、学業の傍ら、タイ舞踊のダンサーとしても活動し、日本やタイで舞台に立ち続けている。7月にはNPO法人日本・アジア芸術協会主催の公演「日本の中のアジア——タイ舞踊とジャワ舞踊のコラボレーション」で所属舞踊団のメンバーと群舞を披露して、喝采を浴びた。



タイの民族舞踊を披露する田中さん（中）

踊ることが好きで、幼いころからクラシックバレエのレッスンに励んでいた。東京都に住んでいた5歳のとき、父親の知人であるタイ舞踊指導者の指導を受ける機会があり、その華やかさと美しさに魅了された。以来、タイ舞踊一本に絞って、同じ指導者の下で研さんを続けている。

10代前半で長野県に移住してからも新幹線で毎週都内の師匠の元に通って稽古を継続。実力が評価され、タイで現地の王立舞踊団と共演した経験も持つ。

会場には田中さんの日ごろの努力を知る人たちが多数訪れ、声援を送った。その一人で第3学年の福成 健さんは「タイ舞踊を見るのは初めてで、迫力がすごかった。田中さんのおかげで新しい世界を知ることができてよかった」とエールを送っていた。

田中さんは「タイ舞踊の魅力は何といっても特有のしなやかで上品な動き。タイの文化の奥深さを学べることや、タイの先生方と交流できることが楽しい。勉強も頑張りがら、これからもタイ舞踊を続け、いろいろな活動をしていきたい」と話している。

学生食堂が新システムにリニューアル

旧カードの返却・返金はお早めに

学生食堂の注文や支払いのシステムが8月1日（金）から、新しいシステムに切り替わった。利用者は、食堂内とビーンズカフェ前の課金機隣に設置した計3台の券売機で食券を購入し、各カウンターの、食券と引き換えて希望の料理を受け取る。旧来のレストランカードは使用できなくなった。

食券は、職員は職員証で、学生は個別配布された新レストランカードで購入できる。ただし、学生の使用している新レストランカードは2026年4月以降、これまでと同様に、学生証と一体化させる。切り替え初日は、食堂内の各所に多くのスタッフが立ち、利用者对新システムについて説明や、券売機の横に立つて操作をサポートしたりした。



スタッフの指導で券売機を操作する職員

券売機には希望の料理が文字で表示されるため、利用者が選

東京歯科大学剣道部との交流試合を開催 ～ 両校の絆更に深まる ～



交流試合に参加した方々

1972年の創部当時、部長の加藤倉三先生（第2代学長）が諏訪で合宿中だった東京歯科大学剣道部に交渉され、合同稽古を実現させて以来、両大学で交互に開催されてきました。

コロナ禍で中止を余儀なくされてきましたが、今年度は東京歯科大学で再開され、今年度は本校で開催しました。

今回、東京歯科大学からは部員7人とマネージャーが参加し

中国・河北外国語学院生らが来学 模擬実習を体験し歯科医療の一端に触れる

7月17日（木）、中国河北省より河北外国語学院の学生・教職員ほか25名が来学、模擬実習などの交流活動を行った。

河北外国語学院との交流は昨年12月に長野県国際課の紹介で孫建中校長を団長とする訪問団が本学を表敬訪問したことから

剣道部は6月14日（土）、15日（日）の2日間、恒例の東京歯科大学との交流試合を本学体育館で開催しました。

東京歯科大学で再開され、今年度は本校で開催しました。

今回、東京歯科大学からは部員7人とマネージャーが参加し

7月17日（木）、中国河北省より河北外国語学院の学生・教職員ほか25名が来学、模擬実習などの交流活動を行った。

河北外国語学院との交流は昨年12月に長野県国際課の紹介で孫建中校長を団長とする訪問団が本学を表敬訪問したことから

OBの伊沢正行先生（33期生）もご出席くださいました。

翌日は交流試合を行い、両大学の対抗戦のほか、抽選での混成チームによる試合なども行い、大いに盛り上がりしました。

続く稽古会には長野県警の森山龍樹先生や菊池繁仁先輩、さ

らに東京歯科大学剣道部監督の花上建一先生も加わってくださいました。

共に汗を流し、両大学剣道部の絆を深めることができました。

開催に当たり、ご協力くださった大学の関係の皆さまに心から感謝申し上げます。

（専部 第4学年 橋本ひかる）

は高校生と大学生がいらつしゃいますが、本日は歯科医師という職業を体験してもらい今後の人生設計の参考にしてもらいたい」と話した。

続いて中村歯学部部長から「本日の模擬実習には本学の中国人留学生がサポートするので安心して実習を楽しんでください」と挨拶があった。

また、訪問団を引率した河北外国語学院日本語学院の趙騰院長は返礼の挨拶で「昨年12月に貴学を訪問し、高度な教育や先端的な医療設備、素晴らしい自然環境や教育理念に深い感銘を受けた」と話した。

その後実習館に移動し行った模擬実習では2班に分けて、理

工学・黒岩昭弘教授および歯科補綴科教員の協力のもと、レジック充填と口腔内細菌観察を体験した。

学生からは「医療現場はチームワークが大事だと実感した。自分の細胞や口腔内細菌をここまでじっくり観察したのは初めてで普段の歯磨きの大切さを学んだ」と感想を話していた。

模擬実習終了後、一行は学生食堂で昼食を体験し、キャンパスを後にした。

日本の大学や歯科医療の一端に触れる貴重な体験となった。

3日（水）前期定期試験（衛生学院第1学年）
6日（土）一日体験入学（衛生学院）
7日（日）一日体験入学（衛生学院）
11日（木）12日（金）演習Ⅲ（第6学年）
16日（火）29日（月）登院試験（衛生学院第2学年）
24日（水）Ⅲ期試験（第6学年）
25日（木）26日（金）大学院発表会
29日（月）演習Ⅰ（第5学年）
30日（火）前期定期試験（衛生学院第3学年）
戴帽式（衛生学院）

9月行事予定

人事異動
〔退職（自都合）〕7月31日付
米倉寿美枝（事務局学事事務員）

大学院セミナー 「新規骨・関節疾患治療薬の探索」

8月8日（金）、東京科学大学大学院医歯学総合研究科口腔基礎工学分野の青木和広教授をお迎えして大学院セミナーが開催された。

青木教授は、東京医科歯科大学（現東京科学大学）大学院博士課程を修了後、同大学歯学部歯科薬理学教室にて、研究教育活動を開始され、現在に至っている。

2018年に骨芽細胞上の膜型RANKL（receptor activator of NF- κ B ligand）が受容体として作用し、骨芽細胞分化を促進させるリバスシグナル伝達を世界に先駆けて報告した（Nature 2018）。この中で、RANKLの細胞内ドメインを変異させたマウスを使った実験では、RANKL刺激により骨吸収活性を上げても、骨形成活性は上がらず、膜型RANKLの細胞内ドメインが骨吸収から骨形成へのカップリング機構に重要な役割を果たしていることが明らかとなった。

また、RANKLに結合する分子すべてがRANKLを介した細胞内シグナル（RANKL逆シグナル）を活性化させることが出ない理由の一端も明らかになった（JBMR 2019）。

一方、RANKL結合ペプチド

（OP34）は、マウスの関節リウマチモデルや変形性関節症モデルにおいて疾患を和らげる作用を示していることを明らかにした。RANKL結合ペプチドの局所の骨造成作用を紹介され、RANKL結合ペプチドの骨・軟骨疾患治療薬としての可能性についてお話を聞いた。

さらに、骨形成タンパク質（BMPs）とOP34ペプチドから構成される薬剤をゼラチンハイドロゲルとともに注入する骨形成促進法に着目し、歯科矯正治療における新たな治療方法の開発の可能性を示した。

青木教授は、歯科医学は、理工学と生物学との融合研究により発展し、今後さらにこの融合研究が重要な位置を占めることを強調された。

歯科医療の現場では、骨を作りたい場所が多くあり、注射によって垂直的に歯槽骨を形成させる研究の成功が待たれるところである。今後、更なる研究の発展を大いに期待したい。

（生化学講座教授 中村美どり）

OBの伊沢正行先生（33期生）もご出席くださいました。

翌日は交流試合を行い、両大学の対抗戦のほか、抽選での混成チームによる試合なども行い、大いに盛り上がりしました。

続く稽古会には長野県警の森山龍樹先生や菊池繁仁先輩、さ

らに東京歯科大学剣道部監督の花上建一先生も加わってくださいました。

共に汗を流し、両大学剣道部の絆を深めることができました。

開催に当たり、ご協力くださった大学の関係の皆さまに心から感謝申し上げます。

（専部 第4学年 橋本ひかる）

は高校生と大学生がいらつしゃいますが、本日は歯科医師という職業を体験してもらい今後の人生設計の参考にしてもらいたい」と話した。

続いて中村歯学部部長から「本日の模擬実習には本学の中国人留学生がサポートするので安心して実習を楽しんでください」と挨拶があった。

また、訪問団を引率した河北外国語学院日本語学院の趙騰院長は返礼の挨拶で「昨年12月に貴学を訪問し、高度な教育や先端的な医療設備、素晴らしい自然環境や教育理念に深い感銘を受けた」と話した。

その後実習館に移動し行った模擬実習では2班に分けて、理

工学・黒岩昭弘教授および歯科補綴科教員の協力のもと、レジック充填と口腔内細菌観察を体験した。

学生からは「医療現場はチームワークが大事だと実感した。自分の細胞や口腔内細菌をここまでじっくり観察したのは初めてで普段の歯磨きの大切さを学んだ」と感想を話していた。

模擬実習終了後、一行は学生食堂で昼食を体験し、キャンパスを後にした。

日本の大学や歯科医療の一端に触れる貴重な体験となった。

3日（水）前期定期試験（衛生学院第1学年）
6日（土）一日体験入学（衛生学院）
7日（日）一日体験入学（衛生学院）
11日（木）12日（金）演習Ⅲ（第6学年）
16日（火）29日（月）登院試験（衛生学院第2学年）
24日（水）Ⅲ期試験（第6学年）
25日（木）26日（金）大学院発表会
29日（月）演習Ⅰ（第5学年）
30日（火）前期定期試験（衛生学院第3学年）
戴帽式（衛生学院）



講演する青木教授

2018年に骨芽細胞上の膜型RANKL（receptor activator of NF- κ B ligand）が受容体として作用し、骨芽細胞分化を促進させるリバスシグナル伝達を世界に先駆けて報告した（Nature 2018）。この中で、RANKLの細胞内ドメインを変異させたマウスを使った実験では、RANKL刺激により骨吸収活性を上げても、骨形成活性は上がらず、膜型RANKLの細胞内ドメインが骨吸収から骨形成へのカップリング機構に重要な役割を果たしていることが明らかとなった。

また、RANKLに結合する分子すべてがRANKLを介した細胞内シグナル（RANKL逆シグナル）を活性化させることが出ない理由の一端も明らかになった（JBMR 2019）。

一方、RANKL結合ペプチド

（OP34）は、マウスの関節リウマチモデルや変形性関節症モデルにおいて疾患を和らげる作用を示していることを明らかにした。RANKL結合ペプチドの局所の骨造成作用を紹介され、RANKL結合ペプチドの骨・軟骨疾患治療薬としての可能性についてお話を聞いた。

さらに、骨形成タンパク質（BMPs）とOP34ペプチドから構成される薬剤をゼラチンハイドロゲルとともに注入する骨形成促進法に着目し、歯科矯正治療における新たな治療方法の開発の可能性を示した。

青木教授は、歯科医学は、理工学と生物学との融合研究により発展し、今後さらにこの融合研究が重要な位置を占めることを強調された。

歯科医療の現場では、骨を作りたい場所が多くあり、注射によって垂直的に歯槽骨を形成させる研究の成功が待たれるところである。今後、更なる研究の発展を大いに期待したい。

（生化学講座教授 中村美どり）

OBの伊沢正行先生（33期生）もご出席くださいました。

翌日は交流試合を行い、両大学の対抗戦のほか、抽選での混成チームによる試合なども行い、大いに盛り上がりしました。

続く稽古会には長野県警の森山龍樹先生や菊池繁仁先輩、さ

らに東京歯科大学剣道部監督の花上建一先生も加わってくださいました。

共に汗を流し、両大学剣道部の絆を深めることができました。

開催に当たり、ご協力くださった大学の関係の皆さまに心から感謝申し上げます。

（専部 第4学年 橋本ひかる）

は高校生と大学生がいらつしゃいますが、本日は歯科医師という職業を体験してもらい今後の人生設計の参考にしてもらいたい」と話した。

続いて中村歯学部部長から「本日の模擬実習には本学の中国人留学生がサポートするので安心して実習を楽しんでください」と挨拶があった。

また、訪問団を引率した河北外国語学院日本語学院の趙騰院長は返礼の挨拶で「昨年12月に貴学を訪問し、高度な教育や先端的な医療設備、素晴らしい自然環境や教育理念に深い感銘を受けた」と話した。

その後実習館に移動し行った模擬実習では2班に分けて、理

工学・黒岩昭弘教授および歯科補綴科教員の協力のもと、レジック充填と口腔内細菌観察を体験した。

学生からは「医療現場はチームワークが大事だと実感した。自分の細胞や口腔内細菌をここまでじっくり観察したのは初めてで普段の歯磨きの大切さを学んだ」と感想を話していた。

模擬実習終了後、一行は学生食堂で昼食を体験し、キャンパスを後にした。

日本の大学や歯科医療の一端に触れる貴重な体験となった。

3日（水）前期定期試験（衛生学院第1学年）
6日（土）一日体験入学（衛生学院）
7日（日）一日体験入学（衛生学院）
11日（木）12日（金）演習Ⅲ（第6学年）
16日（火）29日（月）登院試験（衛生学院第2学年）
24日（水）Ⅲ期試験（第6学年）
25日（木）26日（金）大学院発表会
29日（月）演習Ⅰ（第5学年）
30日（火）前期定期試験（衛生学院第3学年）
戴帽式（衛生学院）

NEW FACE 病院歯科衛生士

本年度新たに本学病院に就職し、各科で業務に励む3人の歯科衛生士さんをご紹介します。



荒井美鈴さん
長野市出身

できるだけ早いうちにいろいろな症例を経験したいと思い、本学病院に就職しました。

保存科に所属していますが、例えば口腔写真の撮

布山宮乃さん
安曇野市出身

大学病院で、様々な患者さんとのかわり方を学びたいです。

常にコミュニケーションを大切にし、患者さんが何に困っているのか、どうしたらそれが解決で

影など、思うように先輩のアシスタントができなかったときは難しさを感じることもありますが、知識と技術を身に付け、徐々に頼られる存在になりたいと思っています。

にぎやかなことが好きですが、一人の時間も大切にしていきたいです。

吉澤和香さん
塩尻市出身

仕事につながる資格を取得して、専門性をもって働きたいと考えている中で、女性も活躍しやすい仕事だと聞いて、歯科衛生士の仕事にひかれるようになった。

うになり、こちらの衛生学院で学びました。

補綴科に所属していますが、まだ分からないことが多く、臨機応変に対応すべき状況でうまくできず戸惑うこともありましたが、丁寧な仕事を心がけています。

休日はアニメを見て気分転換をしています。

3日（水）前期定期試験（衛生学院第1学年）
6日（土）一日体験入学（衛生学院）
7日（日）一日体験入学（衛生学院）
11日（木）12日（金）演習Ⅲ（第6学年）
16日（火）29日（月）登院試験（衛生学院第2学年）
24日（水）Ⅲ期試験（第6学年）
25日（木）26日（金）大学院発表会
29日（月）演習Ⅰ（第5学年）
30日（火）前期定期試験（衛生学院第3学年）
戴帽式（衛生学院）

Matsumoto Dental University SNS Information



LINE



X



Instagram



facebook



一日体験入学

① 9月7日（日） ② 10月19日（日）

※9・10月開催分のみ掲載

開催時間 9:30～15:00（受付 9:00～）

●キャンパスツアー ●ランチ体験
●模擬実習 ●入試説明 ●進学相談など

※参加希望の方は、本学ホームページまたは下記までご連絡ください。

■お問い合わせ■

HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学 入試広報係
www.mdu.ac.jp